

【2015 年度 RFLJ プロジェクト未来 助成研究者の横顔 16 津村 麻紀先生】

第 16 弾は「患者・家族のケアに関する研究」（Ⅱ分野）よりご紹介致します。

◆法政大学 現代福祉学部 平塚共済病院 呼吸器科（緩和医療チーム）

◆研究テーマ「総合病院のがん患者、その家族およびがん医療に携わる医療従事者のた  
めの心理職による援助活動モデルの検証に関する研究」

◆助成金額 50 万円

1. 研究者になろうとしたきっかけ

私は、臨床心理士としてがん患者さんや患者さんのご家族の気持ちに向き合う臨床家です。  
臨床経験を重ねるうちに、自分が現場で試行錯誤してきたことを自分自身で研究して  
検証していかないと誰にでも役に立つような仕事にはならないのだということに気付かさ  
れ、研究を始めました。

そして今は、臨床で人に関わりつつ研究する実践的研究者としての道を歩んでいます。

2. 助成研究の内容紹介

総合病院で治療を受けているがん患者さん、そのご家族、さらにはがん医療に携わる医療  
従事者をも視野にいて、

心理職がどのようにがん医療の中で役に立っていくとよいかという研究をしています。

これを達成するために、まず始めに4つの研究計画を立て、途中アメリカ留学も含めて6  
年の歳月をかけてそれらの研究に取り組んできました。

今回助成していただいたのは、これらの研究の最終段階の検証作業にあたるもので、カウ  
ンセリングやコンサルテーションといった

心理職のがん医療での複雑な動きを、目に見える形で分かりやすくモデル化したものを検  
証していきます。

3. 2の将来に繋がる結果予想

心理職による活動のモデル化は、まだほとんど研究がされていない分野ですが、この研究  
によってモデルが検証され、

日本中のがん患者さんに役に立つことが分かれば、これを足掛かりとしてさらに研究が発  
展すると思います。

将来的には、かかる病院によって心理的ケアの質が異なるとか、ニーズに合わないといっ  
たような問題が無いように改善され、

心理職がいる総合病院であればどこでも基盤のしっかりした心理的ケアが提供されるよう  
になると期待しています。

#### 4. 全国の RFLJ 関係者に一言

R F J 関係者の皆さまのご尽力で、国民のがんに対する意識や、心理的ケアも含めたがん医療そのものが着実に前進していると思いますので、  
ぜひ今後も啓発、サポート活動を盛り上げていていただきたいと思います。  
私もその一翼を担えるように研究を鋭意進めていきたいと思っています。